

大学誘致を求める決議

平成17年1月11日、三原郡四町が合併して誕生した南あわじ市は、温暖な気候と肥沃な三原平野や播磨灘・鳴門海峡といった風土に恵まれ、京阪神への「食」の供給基地として大きな役割を果たすとともに、淡路人形浄瑠璃に代表される豊かな歴史と文化、自然環境に恵まれた住み良い“まち”である。

しかしながら、合併時54,790人であった人口が、平成22年に実施された国勢調査速報値では49,853人と大きく減少し、高齢化率は上昇の一途を辿っている。

人口減少・流出に歯止めをかけるため、安心して子どもを産み育てるための環境づくり、企業誘致による雇用の拡大、若者が安心して働ける場の創出など積極的な施策の展開にもかかわらず顕著な効果が見られない。

この大きな要因の一つとして、高校を卒業した若年層が、市内に大学がないため多額の費用負担を伴う島外の大学へと流出し、そのまま戻ってこないことにある。

このような状況において、市民の教育環境の充実を図り、人口流出に歯止めをかけ、併せて基幹産業の担い手確保、沈滞している地域の活性化を図ることが喫緊の課題である。

よって、市執行部に対して、合併算定替が終了する平成32年度にあっても財政健全化を図られていることとした財政健全化計画を考慮した中で、将来性があり市民に親しまれる優良な大学を誘致するための積極的な取り組みを求める。

以上、決議する。

平成23年9月27日

南あわじ市議会